

新規採用医薬品

2022.3

番号	投与 区分	規制 区分	後発	医薬品名	一般名	規格単位	会社名	薬価	薬効分類
1	注			アイモビーグ皮下注70mgペン	エレヌマブ(遺伝子組換え)キット	70mg1mL1キット	アムジェン	¥41,356.00	頭痛薬-注射(CGRP受容体拮抗薬)
2	注			アジョピ皮下注225mgシリンジ	フレマネズマブ(遺伝子組換え)キット	225mg1.5mL1筒	大塚製薬	¥41,356.00	頭痛薬-注射(CGRP受容体拮抗薬)
3	内	劇		イスツリサ錠1mg	オシロドロスタットリン酸塩錠	1mg1錠	レコルダティ	¥3,335.90	ステロイド合成阻害薬
4	内	劇		イスツリサ錠5mg	オシロドロスタットリン酸塩錠	5mg1錠	レコルダティ	¥13,249.00	ステロイド合成阻害薬
5	注	劇	後	インスリン アスパルトBS注100単位/mL NR「サノフィ」	インスリン アスパルト(遺伝子組換え)注射液	100単位1mLバイアル	サノフィ	¥218.00	糖尿病用薬(インスリン製剤)
6	注			エネフリード輸液	アミノ酸・糖・電解質・脂肪・ビタミンキット	550mL1キット	大塚工場=大塚製薬	¥1,059.00	電解質・脂肪・ビタミン・糖類加アミノ酸輸液
7	注			エネフリード輸液	アミノ酸・糖・電解質・脂肪・ビタミンキット	1100mL1キット	大塚工場=大塚製薬	¥1,473.00	電解質・脂肪・ビタミン・糖類加アミノ酸輸液
8	外	劇		エムラクリーム	リドカイン・プロピトカイン配合剤クリーム	1g	佐藤製薬	¥187.80	外用表面麻酔(アミド型)
9	内	劇	後	エルデカルシトールカプセル0.75μg「トーウ」	エルデカルシトールカプセル	0.75μg1カプセル	東和薬品	¥29.60	骨代謝改善薬-内用(ビタミンD剤)
10	注	劇		オプジーボ点滴静注120mg	ニボルマブ(遺伝子組換え)注射液	120mg12mL1瓶	小野	¥185,482.00	制癌薬-注射(抗PD-1抗体製剤)
11	注	劇	後	オندانセトロン注4mgシリンジ「マルイシ」	オندانセトロン塩酸塩水和物キット	4mg2mL1筒	丸石	¥3,524.00	鎮吐薬-注射(5HT3受容体拮抗薬)
12	内			カリメート経口液20%	ポリスチレンスルホン酸カルシウム液	20%25g1包	興和	¥72.00	高カリウム血症治療薬-内用
13	注	劇		キロサイドN注1g	シタラビン注射液	1g1瓶	日本新薬	¥7,376.00	制癌薬-注射(ヌクレオシド系)
14	注	劇		ケンシブタ皮下注20mgペン	オファツムマブ(遺伝子組換え)キット	20mg0.4mL1キット	ノバルティス	¥230,860.00	多発性硬化症用モノクローナル抗体
15	注	劇		ザフネロー点滴静注300mg	アニフロルマブ(遺伝子組換え)注射液	300mg2mL1瓶	アストラゼネカ	¥96,068.00	膠原病用モノクローナル抗体
16	注	劇		スキリージ皮下注150mgシリンジ1mL	リサンキズマブ(遺伝子組換え)キット	150mg1mL1筒	アッヴィ	¥474,616.00	乾癬用抗体製剤
17	内		後	ソタロール塩酸塩錠40mg「TE」	ソタロール塩酸塩錠	40mg1錠	トーアエイヨー	¥63.00	不整脈用薬-内用(非選択性β遮断薬),不整脈用薬-内用(クラスIII)
18	内		後	ソリフェナシンコハク酸塩OD錠2.5mg「日医工」	コハク酸ソリフェナシン口腔内崩壊錠	2.5mg1錠	日医工	¥38.20	頻尿・尿失禁治療薬-内用(ムスカリン受容体拮抗薬)
19	内			ツイミーグ錠500mg	イメグリミン塩酸塩錠	500mg1錠	大日本住友	¥34.40	経口血糖降下薬(グリニン系)
20	内			デエビゴ錠2.5mg	レンボレキサント錠	2.5mg1錠	エーザイ	¥57.30	催眠鎮静薬-内用(αβ遮断薬)
21	内	劇		トランデート錠50mg	ラベタロール塩酸塩錠	50mg1錠	サンドファーマ=サンド	¥13.50	血圧降下薬-内用(αβ遮断薬)
22	注	劇		トレスパー注ベンフィル	インスリン デグルデク(遺伝子組換え)注射液	300単位1筒	ノボ	¥1,678.00	糖尿病用薬(インスリン製剤)
23	内	劇		ハイヤスタ錠10mg	ツジジノスタット錠	10mg1錠	Huya=MeijiSeika	¥20,030.50	制癌薬-内用(ヒストン脱アセチル酵素阻害薬)
24	注	劇		バドセブ点滴静注用30mg	エンホルツマブバドチン(遺伝子組換え)注射用	30mg1瓶	アステラス	¥99,609.00	制癌薬-注射(抗ネクチン-4抗体製剤),制癌薬-注射(微小管阻害薬),抗体薬物複合体
25	外			ビーエスエスプラス500眼濯液0.0184%	オキシグルタチオン液	0.46%20mL1瓶(希釈液付)	アルコン	¥3,246.20	眼灌流・洗浄剤
26	注	劇		ヒューマログ注ミリオペンHD	インスリン リスプロ(遺伝子組換え)キット	300単位1キット	リリー	¥1,342.00	糖尿病用薬(インスリン製剤)
27	内			ピラノOD錠20mg	ピラスチン口腔内崩壊錠	20mg1錠	大鵬薬品=MeijiSeika	¥66.80	抗ヒスタミン薬-内用(第2世代)
28	内	劇	後	ピルシカイニド塩酸塩カプセル50mg「DSEP」	ピルシカイニド塩酸塩50mgカプセル	50mg1カプセル	第一三共エスファ	¥28.40	不整脈用薬-内用(クラスIc)
29	注			フィブリノゲンHT静注用1g「JB」	乾燥人フィブリノゲン	1g1瓶(溶解液付)	日本血液製剤機構	¥25,681.00	凝固因子製剤
30	内			ベリキューボ錠10mg	ベルイシグアト錠	10mg1錠	バイエル	¥403.80	可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激剤
31	内			ベリキューボ錠2.5mg	ベルイシグアト錠	2.5mg1錠	バイエル	¥131.50	可溶性グアニル酸シクラーゼ刺激剤
32	注		後	ホスアプレピタント点滴静注用150mg「NK」	ホスアプレピタントメグルミン注射用	150mg1瓶	日本化薬	¥6,041.00	鎮吐薬-注射(NK1受容体拮抗薬)
33	注	劇		ミルセラ注シリンジ150μg	エゴエチン ベータ ベゴル(遺伝子組換え)キット	150μg0.3mL1筒	中外	¥22,712.00	造血薬-注射(エゴエチン類)
34	注	劇		ミルセラ注シリンジ200μg	エゴエチン ベータ ベゴル(遺伝子組換え)キット	200μg0.3mL1筒	中外	¥28,954.00	造血薬-注射(エゴエチン類)
35	注	劇		ミルセラ注シリンジ250μg	エゴエチン ベータ ベゴル(遺伝子組換え)キット	250μg0.3mL1筒	中外	¥34,700.00	造血薬-注射(エゴエチン類)
36	注	劇		ヤーボイ点滴静注液20mg	イビリムマブ(遺伝子組換え)注射液	20mg4mL1瓶	BMS	¥200,703.00	制癌薬-注射(抗CTLA-4抗体製剤)
37	注	劇		ユルトミリスHI点滴静注300mg/3mL	ラブリズマブ(遺伝子組換え)注射液	300mg3mL1瓶	アレクシオン	¥699,570.00	抗C5抗体製剤,生物学的製剤(その他)
38	注			ライザケア輸液	L-リシン塩酸塩・L-アルギニン塩酸塩注射液	1L1袋	富士フイルム富山化学	¥1,180.00	アミノ酸輸液
39	内	劇		ラゲブリアカプセル200mg	モルヌビラビルカプセル	200mg1カプセル	MSD		抗SARS-CoV-2用薬
40	注	劇	後	ラニズマブBS硝子体内注射用キット10mg/mL「センジュ」	ラニズマブ(遺伝子組換え)キット	0.5mg0.05mL1筒	千寿=武田	¥85,535.00	加齢黄斑変性症治療薬-眼科用
41	外			リティンパ耳科用250μgセット	トラフェルミン(遺伝子組換え)液	1セット	ノーベル	¥32,628.80	線維芽細胞成長因子製剤-耳鼻科用
42	注	劇		ルタテラ静注	ルテチウムオキソドントレオチド(177Lu)注射液	7.4GBq25mL1瓶	富士フイルム富山化学	¥2,648,153.00	制癌薬-注射(ソマトスタチンアナログ)
43	注			レカルプリオ配合点滴静注用	レバクタム水和物 イミベナム水和物 シラスタチンナトリウム注射用	(1.25g)1瓶	MSD	¥22,447.00	抗菌薬-注射(カルバペネム系),抗菌薬-注射(βラクタマーゼ阻害薬配合)
44	内	劇		レキサルティOD錠1mg	ブレクスピプラゾール口腔内崩壊錠	1mg1錠	大塚製薬	¥260.60	精神神経用薬-内用(ドバミンD2受容体部分アゴニスト)
45	内	劇		レキサルティOD錠2mg	ブレクスピプラゾール口腔内崩壊錠	2mg1錠	大塚製薬	¥496.50	精神神経用薬-内用(ドバミンD2受容体部分アゴニスト)
46	注			レコベル皮下注12μgペン	ホリトロピン デルタ(遺伝子組換え)キット	12μg0.36mL1キット	フェリング		卵巣刺激ホルモン製剤
47	注			レコベル皮下注36μgペン	ホリトロピン デルタ(遺伝子組換え)キット	36μg1.08mL1キット	フェリング		卵巣刺激ホルモン製剤
48	注			レコベル皮下注72μgペン	ホリトロピン デルタ(遺伝子組換え)キット	72μg2.16mL1キット	フェリング		卵巣刺激ホルモン製剤
49	内	劇		レットヴィモカプセル40mg	セルベルカチニブカプセル	40mg1カプセル	リリー	¥3,680.00	制癌薬-内用(RETキナーゼ阻害剤)
50	内	劇		レットヴィモカプセル80mg	セルベルカチニブカプセル	80mg1カプセル	リリー	¥6,984.50	制癌薬-内用(RETキナーゼ阻害剤)

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
1	<p>【ヒト抗CGRP受容体モノクローナル抗体製剤】</p> <p>生物</p> <p>アイモビーグ皮下注 70mgペン</p> <p>エレヌマブ(遺伝子組換え)</p> <p>アムジェン(株)</p>	本剤成分に対し過敏症の既往		<p>○片頭痛発作の発症抑制</p> <p>70mgを4週間に1回皮下投与する。</p>	<p>【重要な特定されたリスク】 重篤な過敏症、重篤な便秘</p> <p>【重要な潜在的リスク】 高血圧</p> <p>【重要な不足情報】 妊婦における安全性 心血管系事象 長期投与における安全性</p>	<p>【自己注射】 8.5 本剤の自己投与にあたっては、以下の点に留意すること。・本剤の投与開始にあたっては、医療施設において、必ず医師によるか、医師の直接の監督のもとで投与を行うこと。</p>
2	<p>【ヒト化抗CGRPモノクローナル抗体製剤】</p> <p>生物</p> <p>アジョビ皮下注 225mgシリンジ</p> <p>フレマネズマブ(遺伝子組換え)</p> <p>大塚製薬(株) TevaPharmaceuticalIndustriesLtd.</p>	本剤成分に対し重篤な過敏症の既往		<p>○片頭痛発作の発症抑制</p> <p>4週間に1回225mgを皮下投与する、又は12週間に1回675mgを皮下投与する。</p>	<p>【重要な特定されたリスク】 重篤な過敏症反応</p> <p>【重要な潜在的リスク】 該当なし</p> <p>【重要な不足情報】 妊婦における安全性 長期投与における安全性 心血管系事象</p>	

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
3	<p>【副腎皮質ホルモン合成阻害剤】</p> <p>劇</p> <p>イソツリサ錠</p> <p>1mg</p> <p>5mg</p> <p>オシロドロスタットリン酸塩</p> <p>レコルダティ・レア・ディジーズ・ジャパン(株)</p>	<p>2.1本剤成分に対し過敏症の既往</p> <p>2.2副腎皮質機能不全の者</p> <p>2.3妊婦又は妊娠している可能性のある女性</p>		<p>○クッシング症候群（外科的処置で効果が不十分又は施行が困難な場合）</p> <p>1回1mgを1日2回経口投与から開始するが、開始用量は患者の状態に応じて適宜減量する。その後は、患者の状態に応じて適宜増減するが、最高用量は1回30mgを1日2回とする。</p>	<p>【重要な特定されたリスク】</p> <p>低コルチゾール血症、QT延長、副腎ホルモン前駆体蓄積関連事象</p> <p>【重要な潜在的リスク】</p> <p>下垂体腫瘍の増大</p> <p>【重要な不足情報】</p> <p>肝機能障害患者への投与時の安全性、長期使用時の安全性</p>	<p>【自動車運転】 8.6 めまい、眠気等があらわれることがあるので、自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には注意させること。</p>
4	<p>【超速効型インスリンアナログ注射液】</p> <p>劇</p> <p>インスリンアスパルトBS注100単位/mL NR「サノフィ」</p> <p>インスリンアスパルト(遺伝子組換え)</p> <p>サノフィ(株)</p>	<p>2.1低血糖症状を呈している患者</p> <p>2.2本剤成分に対し過敏症の既往</p>		<p>○インスリン療法が適応となる糖尿病</p> <p>初期は1回2～20単位を毎食直前に皮下注射するが、持続型インスリン製剤と併用することがある。なお、投与量は症状及び検査所見に応じて適宜増減するが、持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量は通常1日4～100単位である。必要に応じ静脈内注射又は持続静脈内注入を行う。</p>	<p>【重要な特定されたリスク】</p> <p>低血糖、全身性アレルギー反応</p> <p>【重要な潜在的リスク】</p> <p>投薬過誤(インスリン製剤取違い)</p> <p>【重要な不足情報】</p> <p>なし</p>	<p>【自己注射】 8.5 本剤の自己注射にあたっては、以下の点に留意すること。・投与方法について十分な教育訓練を実施したのち、患者自ら確実に投与できることを確認した上で、医師の管理指導の下で実施すること。</p> <p>【自動車運転】 8.2 低血糖を起こすことがあるので、高所作業、自動車の運転等に従事している患者に投与するときには注意すること。</p>

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
5	エネフリード輸液 アミノ酸・糖・電解質・ 脂肪・ビタミン (株)大塚製薬工場 大塚製薬(株)	【禁忌】 2.1重篤な肝障害、肝性昏睡又は肝性昏睡のおそれのある者 2.2重篤な腎障害のある者又は高窒素血症の者（いずれも透析又は血液ろ過を実施している患者を除く） 2.3乏尿のある者（透析又は血液ろ過を実施している患者を除く） 2.4うっ血性心不全のある者 2.5高度のアシドーシス（高乳酸血症等）のある者 2.6高カリウム血症、アジソン病の者 2.7高リン血症、副甲状腺機能低下症の者 2.8高マグネシウム血症、甲状腺機能低下症の者 2.9高カルシウム血症の者 2.10閉塞性尿路疾患により尿量が減少している患者 2.11アミノ酸代謝異常症の者 2.12血栓症の者 2.13重篤な血液凝固障害のある者 2.14血友病の者 2.15ケトーシスを伴った糖尿病の者 2.16重度の高脂血症の者 2.17本剤又は本剤配合成分に対し過敏症の既往		○下記状態時のアミノ酸、電解質、カロリー、脂肪酸、水溶性ビタミン及び水分の補給・経口摂取不十分で、軽度の低蛋白血症又は軽度の低栄養状態にある場合・手術前後 1回550mLを末梢静脈内に点滴静注する。投与速度は、通常、成人550mL当たり120分を基準とする。なお、症状、年齢、体重に応じて適宜増減するが、最大投与量は1日2200mLまでとする。		【漏出】 14.3.4 アミノ酸・糖・電解質製剤、アミノ酸・糖・電解質・ビタミンB1製剤及び脂肪乳剤において血管外漏出が原因と考えられる皮膚壊死、潰瘍形成が報告されているので、点滴部位の観察を十分に行い、発赤、浸潤、腫脹などの血管外漏出の徴候があらわれた場合には、直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考																												
6	<p>【外用局所麻酔剤】</p> <p>劇</p> <p>エムラクリーム</p> <p>プロピトカイン リドカイン</p> <p>佐藤製薬(株) アストラゼネカ社</p>	<p>1.メトヘモグロビン血症のある者</p> <p>2.本剤成分又はアミド型局所麻酔剤に対して過敏症の既往</p>		<p>①皮膚レーザー照射療法時の疼痛緩和</p> <p>②注射針・静脈留置針穿刺時の疼痛緩和</p> <p><成人> 通常、成人には、レーザー照射予定部位又は注射針・静脈留置針穿刺予定部位に10cm²あたり本剤1gを、密封法(ODT)により60分間塗布する。なお、1回あたりの塗布量は10gまでとし、塗布時間は120分を超えないこと。</p> <p><小児> 通常、小児等には、レーザー照射予定部位又は注射針・静脈留置針穿刺予定部位に10cm²あたり本剤1gを、密封法(ODT)により60分間塗布する。なお、1回あたりの塗布量及び塗布時間は下表を超えないこと。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢(月齢)</th> <th>体重</th> <th>最大塗布量</th> <th>最大塗布時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0～2ヶ月</td> <td>/</td> <td>1g</td> <td>60分</td> </tr> <tr> <td>3～11ヶ月</td> <td>5kg以下</td> <td>1g</td> <td>60分</td> </tr> <tr> <td>3～11ヶ月</td> <td>5kg超</td> <td>2g</td> <td>60分</td> </tr> <tr> <td>1～14歳</td> <td>5kg以下</td> <td>1g</td> <td>60分</td> </tr> <tr> <td>1～14歳</td> <td>5kg超10kg以下</td> <td>2g</td> <td>120分</td> </tr> <tr> <td>1～14歳</td> <td>10kg超</td> <td>10g</td> <td>120分</td> </tr> </tbody> </table>	年齢(月齢)	体重	最大塗布量	最大塗布時間	0～2ヶ月	/	1g	60分	3～11ヶ月	5kg以下	1g	60分	3～11ヶ月	5kg超	2g	60分	1～14歳	5kg以下	1g	60分	1～14歳	5kg超10kg以下	2g	120分	1～14歳	10kg超	10g	120分		
年齢(月齢)	体重	最大塗布量	最大塗布時間																															
0～2ヶ月	/	1g	60分																															
3～11ヶ月	5kg以下	1g	60分																															
3～11ヶ月	5kg超	2g	60分																															
1～14歳	5kg以下	1g	60分																															
1～14歳	5kg超10kg以下	2g	120分																															
1～14歳	10kg超	10g	120分																															
7	<p>【骨粗鬆症治療剤(活性型ビタミンD3製剤)】</p> <p>劇</p> <p>エルデカルシトールカプセル0.75μg「トーワ」</p> <p>エルデカルシトール</p> <p>東和薬品(株)</p>	<p>妊婦、妊娠している可能性のある女性又は授乳婦</p>		<p>○骨粗鬆症</p> <p>1日1回0.75μgを経口投与する。ただし、症状により適宜1日1回0.5μgに減量する。</p>																														

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
8	<p>【抗悪性腫瘍剤ヒト型抗ヒトPD-1モノクローナル抗体】</p> <p>劇 生物</p> <p>オプジーボ点滴静注 120mg</p> <p>ニボルマブ(遺伝子組換え)</p> <p>小野薬品工業(株) ブリストル・マイヤーズ スクイブ(株)</p>	本剤成分に対し過敏症の既往		<p>①悪性黒色腫1回240mgを2週間間隔又は1回480mgを4週間間隔で点滴静注。ただし、悪性黒色腫における術後補助療法の場合は、投与期間は12ヵ月間まで。根治切除不能な悪性黒色腫に対してイピリムマブ（遺伝子組換え）と併用する場合は、1回80mgを3週間間隔で4回点滴静注。その後、1回240mgを2週間間隔又は1回480mgを4週間間隔で点滴静注。</p> <p>②切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌、③治癒切除不能な進行・再発の胃癌 1回240mgを2週間間隔又は1回480mgを4週間間隔で点滴静注。他の抗悪性腫瘍剤と併用する場合は、1回240mgを2週間間隔又は1回360mgを3週間間隔で点滴静注。</p> <p>④根治切除不能又は転移性の腎細胞癌 1回240mgを2週間間隔又は1回480mgを4週間間隔で点滴静注。カボザンチニブと併用する場合は、1回240mgを2週間間隔又は1回480mgを4週間間隔で点滴静注。化学療法未治療の根治切除不能又は転移性の腎細胞癌に対してイピリムマブ（遺伝子組換え）と併用する場合は、1回240mgを3週間間隔で4回点滴静注。その後、1回240mgを2週間間隔又は1回480mgを4週間間隔で点滴静注。</p> <p>⑤再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫 1回240mgを2週間間隔又は1回480mgを4週間間隔で点滴静注。小児には1回3mg/kg（体重）を2週間間隔で点滴静注。なお、体重40kg以上の小児には、1回240mgを2週間間隔又は1回480mgを4週間間隔で点滴静注することもできる。</p> <p>⑥再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌、⑦原発不明癌 1回240mgを2週間間隔又は1回480mgを4週間間隔で点滴静注。</p> <p>⑧切除不能な進行・再発の悪性胸膜中皮腫 1回240mgを2週間間隔又は1回480mgを4週間間隔で点滴静注。イピリムマブ（遺伝子組換え）と併用する場合は、1回240mgを2週間間隔又は1回360mgを3週間間隔で点滴静注。</p> <p>⑨がん化学療法後に増悪した治癒切除不能な進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性（MSI-High）を有する結腸・直腸癌 1回240mgを2週間間隔又は1回480mgを4週間間隔で点滴静注。イピリムマブ（遺伝子組換え）と併用する場合は、1回240mgを3週間間隔で4回点滴静注。その後、1回240mgを2週間間隔又は1回480mgを4週間間隔で点滴静注。</p> <p>⑩根治切除不能な進行・再発の食道癌 1回240mgを2週間間隔又は1回480mgを4週間間隔で点滴静注。他の抗悪性腫瘍剤と併用する場合は、1回240mgを2週間間隔、1回360mgを3週間間隔又は1回480mgを4週間間隔で点滴静注。</p> <p>⑪食道癌における術後補助療法、⑫尿路上皮癌における術後補助療法 1回240mgを2週間間隔又は1回480mgを4週間間隔で点滴静注。ただし、投与期間は12ヵ月間まで。</p>	<p>【重要な特定されたリスク】</p> <p>間質性肺疾患 重度の皮膚障害 重症筋無力症、心筋炎、筋炎、横紋筋融解症、静脈血栓塞栓症、Infusion reaction、大腸炎、小腸炎、重度の下痢、重篤な血液障害、1型糖尿病、血球貪食症候群、劇症肝炎、肝不全、肝機能障害、肝炎、硬化性胆管炎 結核、肺炎、内分泌障害（甲状腺機能障害、下垂体機能障害、副腎障害）、重度の胃炎、臓器移植歴（造血幹細胞移植歴を含む）のある患者への使用、神経障害、腎障害、脳炎</p> <p>【重要な潜在的リスク】</p> <p>過度の免疫反応、 胚胎児毒性、心臓障害（心房細動、徐脈、心室性期外収縮等）、赤芽球癆、腫瘍出血、瘻孔、本剤投与後の同種造血幹細胞移植に関連する重度の合併症発現リスクの増加〔造血器腫瘍〕</p> <p>【重要な不足情報】</p> <p>該当なし</p>	【同意の取得（警告）】 同意を得てから投与すること。

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
9	<p>【5-HT3受容体拮抗型制吐剤】</p> <p>劇</p> <p>オンダンセトロン注4mgシリンジ「マルイシ」</p> <p>オンダンセトロン塩酸塩水和物</p> <p>丸石製薬(株)</p>	本剤成分に対して過敏症の既往		<p>①抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）投与に伴う消化器症状（悪心、嘔吐）</p> <p>1回4mg、1日1回緩徐に静脈内投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。また、効果不十分な場合には、同用量を追加投与できる。</p> <p>小児には1回2.5mg/m²、1日1回緩徐に静脈内投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。また、効果不十分な場合には、同用量を追加投与できる。</p> <p>②術後の消化器症状（悪心、嘔吐）</p> <p>1回4mgを緩徐に静脈内投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。</p> <p>小児には1回0.05～0.1mg/kg（最大4mg）を緩徐に静脈内投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>		
10	<p>【血清カリウム抑制剤】</p> <p>カリメート経口液20%</p> <p>ポリスチレンスルホン酸カルシウム</p> <p>興和株式会社</p>	腸閉塞の者		<p>○急性及び慢性腎不全に伴う高カリウム血症</p> <p>1日75～150g（ポリスチレンスルホン酸カルシウムとして1日15～30g）を2～3回に分け、経口投与する。なお、症状により適宜増減する。</p>		

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
11	<p>【再発・難治性急性白血病・悪性リンパ腫治療剤】</p> <p>劇</p> <p>キロサイドN注1g</p> <p>シタラビン</p> <p>日本新薬(株)</p>	<p>2.1本剤に対する重篤な過敏症の既往</p> <p>2.2重篤な感染症を合併している患者</p>		<p><シタラビン大量療法> (1)急性骨髄性白血病 1回2g/m²を5%ブドウ糖液あるいは生理食塩液に混合して300~500mLとし、12時間毎に3時間かけて点滴で最大6日間連日静脈内投与する。小児に投与する場合には、1回3g/m²を12時間毎に3時間かけて点滴で3日間連日静脈内投与する。</p> <p>(2)急性リンパ性白血病 他の抗腫瘍剤と併用し、1回2g/m²を5%ブドウ糖液あるいは生理食塩液に混合して300~500mLとし、12時間毎に3時間かけて点滴で最大6日間連日静脈内投与する。小児に投与する場合には、他の抗腫瘍剤と併用し、1回2g/m²を12時間毎に3時間かけて点滴で3日間連日静脈内投与する。</p> <p>(3)悪性リンパ腫 他の抗腫瘍剤と併用し、1回2g/m²を5%ブドウ糖液あるいは生理食塩液に混合して300~500mLとし、1日1~2回3時間かけて点滴で1~2日間（最大2回）連日静脈内投与する。小児に投与する場合には、他の抗腫瘍剤と併用し、1回2g/m²を12時間毎に3時間かけて点滴で3日間連日静脈内投与する。</p> <p>なお、患者の年齢、末梢血及び骨髄の状態等により適宜減量する。</p> <p><腫瘍特異的T細胞輸注療法の前処置> 再生医療等製品の用法及び用量又は使用方法に基づき使用する。</p>		<p>【同意の取得（警告）】</p> <p>同意を得てから投与を開始すること。</p>

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
12	<p>【多発性硬化症治療剤／ヒト型抗CD20モノクローナル抗体】</p> <p>劇生物 ケシンプタ皮下注 20mgペン</p> <p>オフアツムマブ(遺伝子組換え)</p> <p>ノバルティスファーマ(株)</p>	2.1本剤成分に対し過敏症の既往		<p>○下記患者における再発予防及び身体的障害の進行抑制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再発寛解型多発性硬化症 ・疾患活動性を有する二次性進行型多発性硬化症 <p>1回20mgを初回、1週後、2週後、4週後に皮下注射し、以降は4週間隔で皮下注射する。</p>	<p>【重要な特定されたリスク】 感染症、注射に伴う全身反応</p> <p>【重要な潜在的リスク】 B型肝炎ウイルス（HBV）再活性化、進行性多巣性白質脳症（PML）、悪性腫瘍、免疫応答の低下、妊娠への投与による児への影響</p> <p>【重要な不足情報】 長期投与時の安全性</p>	<p>【B型再活性化】 8.1 B型肝炎ウイルスの再活性化による肝炎があらわれるおそれがあるので、本剤投与に先立ってB型肝炎ウイルス感染の有無を確認すること。</p> <p>【自己注射】 8.5 本剤の投与開始にあたっては、医療施設において、必ず医師によるか、医師の直接の監督のもとで投与を行うこと。</p>
13	<p>【ヒト抗I型インターフェロン受容体1モノクローナル抗体】</p> <p>劇生物 サフネロー点滴静注 300mg</p> <p>アニフロルマブ(遺伝子組換え)</p> <p>アストラゼネカ(株)</p>	<p>2.1本剤成分に対し過敏症の既往</p> <p>2.2重篤な感染症の者</p> <p>2.3活動性結核の者</p>		<p>○既存治療で効果不十分な全身性エリテマトーデス</p> <p>300mgを4週間ごとに30分以上かけて点滴静注する。</p>	<p>【重要な特定されたリスク】 帯状疱疹、重篤な感染症、アナフィラキシー</p> <p>【重要な潜在的リスク】 悪性腫瘍、B型肝炎ウイルスの再活性化、免疫原性</p> <p>【重要な不足情報】 該当なし</p>	<p>【B型再活性化】 8.6 B型肝炎ウイルスキャリアの患者又は既往感染者（HBs抗原陰性、かつHBc抗体又はHBs抗体陽性）において、B型肝炎ウイルスの再活性化による肝炎があらわれるおそれがあるため、本剤投与に先立って、B型肝炎ウイルス感染の有無を確認すること。</p>

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
14	<p>【ヒト化抗ヒトIL-23p19モノクローナル抗体製剤】</p> <p>劇生物</p> <p>スキリージ皮下注 150mgペン1mL</p> <p>リサンキズマブ(遺伝子組換え)</p> <p>アッヴィ(同)</p>	<p>2.1重篤な感染症の者</p> <p>2.2活動性結核の者</p> <p>2.3本剤成分に対し過敏症の既往</p>		<p>○既存治療で効果不十分な下記疾患</p> <p>尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症</p> <p>1回150mgを初回、4週後、以降12週間隔で皮下投与する。なお、患者の状態に応じて1回75mgを投与することができる。</p>	<p>【重要な特定されたリスク】</p> <p>重篤な感染症、重篤な過敏症</p> <p>【重要な潜在的リスク】</p> <p>心血管系事象、悪性腫瘍、免疫原性、好中球数減少</p> <p>【重要な不足情報】</p> <p>なし</p>	
15	<p>【抗SARS-CoV-2モノクローナル抗体】</p> <p>ゼビュディ点滴静注液500mg</p> <p>ソトロビマブ(遺伝子組換え)</p> <p>グラクソ・スミスクライン(株)</p>	<p>本剤成分に対し重篤な過敏症の既往</p>		<p>OSARS-CoV-2による感染症</p> <p>成人及び12歳以上かつ体重40kg以上の小児には、500mgを単回点滴静注する。</p>	<p>【重要な特定されたリスク】</p> <p>アナフィラキシー等の重篤な過敏症、Infusion Reaction</p> <p>【重要な潜在的リスク】</p> <p>該当なし</p> <p>【重要な不足情報】</p> <p>該当なし</p>	

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
16	<p>【不整脈治療剤】</p> <p>ソタロール塩酸塩錠 40mg 「TE」</p> <p>ソタロール塩酸塩</p> <p>トーアエイヨー(株)</p>	<p>1.心原性ショックの者</p> <p>2.重度のうっ血性心不全の者</p> <p>3.重篤な腎障害 (CLcr<10mL/min) のある者</p> <p>4.高度の洞性徐脈 (50拍/分未満、高度の洞不全) のある者</p> <p>5.高度の刺激伝導障害 (II～III度の房室ブロック、高度の洞房ブロック等) のある者</p> <p>6.気管支喘息、気管支痙攣のおそれのある者</p> <p>7.先天性又は後天性のQT延長症候群の者</p> <p>8.本剤に対する重篤な過敏症の既往</p> <p>9.心筋抑制のある麻酔薬 (シクロプロパン等) を投与中の者</p> <p>10.併用禁忌薬剤を投与中の者</p>	<p>▼アミオダロン塩酸塩 (注射) (アンカロン注) バルデナフィル塩酸塩水和物 (レビトラ) モキシフロキサシン塩酸塩 (アベロックス) トレミフェンクエン酸塩 (フェアストン) フィンゴリモド塩酸塩 (イムセラ、ジレニア)</p> <p>▼エリグルスタット酒石酸塩 (サデルガ)</p>	<p>○生命に危険のある下記の再発性不整脈で他の抗不整脈薬が無効か、又は使用できない場合</p> <p>心室頻拍、心室細動</p> <p>成人にはソタロール塩酸塩として1日80mgから投与を開始し、効果が不十分な場合は1日320mgまで漸増し、1日2回に分けて経口投与する。</p>		

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
17	【過活動膀胱治療剤】 ソリフェナシンコハク酸塩OD錠2.5mg 「日医工」 コハク酸ソリフェナシン 日医工(株)	2.1本剤成分に対し過敏症の既往 2.2尿閉を有する者 2.3閉塞隅角緑内障の者 2.4幽門部、十二指腸又は腸管が閉塞している患者及び麻痺性イレウスのある者 2.5胃アトニー又は腸アトニーのある者 2.6重症筋無力症の者 2.7重篤な心疾患の者 2.8重度の肝機能障害患者 (Child-Pugh分類C)		○過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁 5mgを1日1回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日最高投与量は10mgまでとする。		【自動車運転】 8.1 眼調節障害（霧視等）、傾眠が起こることがあるので、高所作業、自動車の運転等危険を伴う作業に従事する場合には注意させること。
18	【糖尿病用剤】 ツイミーグ錠500mg イメグリミン塩酸塩 住友ファーマ(株)	2.1本剤成分に対し過敏症の既往 2.2重症ケトーシス、糖尿病性昏睡又は前昏睡、 1型糖尿病 の者 2.3重症感染症、手術前後、 重篤な外傷 のある者		○2型糖尿病 1回1000mgを1日2回朝、夕に経口投与する。	【重要な特定されたリスク】 低血糖、消化器症状 【重要な潜在的リスク】 乳酸アシドーシス 【重要な不足情報】 腎機能障害患者での安全性、心血管系リスクへの影響	【自動車運転】 8.3 低血糖症状を起こすことがあるので、高所作業、自動車の運転等に従事している患者に投与するときには注意すること。

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
19	<p>【不眠症治療薬】</p> <p>習慣性 デエビゴ錠2.5mg</p> <p>レンボレキサント</p> <p>エーザイ(株)</p>	<p>1.本剤成分に対し過敏症の既往</p> <p>2.重度の肝機能障害のある者</p>		<p>○不眠症</p> <p>通常、成人にはレンボレキサントとして1日1回5mgを就寝直前に経口投与する。なお、症状により適宜増減するが、1日1回10mgを超えないこととする。</p>	<p>【重要な特定されたリスク】</p> <p>睡眠時麻痺、傾眠</p> <p>【重要な潜在的リスク】</p> <p>ナルコレプシー症状、乱用の可能性、自殺念慮及び自殺行動、睡眠時随伴症</p> <p>【重要な不足情報】</p> <p>該当なし</p>	<p>【自動車運転】 (1)本剤の影響が服用の翌朝以後に及び、眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがあるので、自動車の運転など危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。</p>
20	<p>【αβ遮断性降圧剤】</p> <p>劇 トランデート錠50mg</p> <p>ラベタロール塩酸塩</p> <p>サンド(株) サンドファーマ(株)</p>	<p>1.糖尿病性ケトアシドーシス、代謝性アシドーシスのある者</p> <p>2.高度の徐脈（著しい洞性徐脈）、房室ブロック（II、III度）、洞房ブロックのある者</p> <p>3. (1)心原性ショックの者 (2)肺高血圧による右心不全のある者 (3)うっ血性心不全のある者</p> <p>4.本剤成分に対して過敏症の既往</p> <p>5.気管支喘息、気管支痙攣のおそれのある者</p>		<p>○本態性高血圧症 褐色細胞腫による高血圧症</p> <p>1日150mgより投与を開始し、効果不十分な場合には1日450mgまで漸増し、1日3回に分割、経口投与する。なお、年齢・症状により適宜増減する。</p>		<p>【周術期】 (4)褐色細胞腫の手術時に使用する場合を除き、手術前24時間は投与しないことが望ましい。</p> <p>【自動車運転】 (5)めまい、ふらつきがあらわれることがあるので、本剤投与中の患者（特に投与初期）には、自動車の運転等危険を伴う機械の作業に注意させること。</p>

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
21	<p>【持効型溶解インスリンアナログ注射液】</p> <p>劇</p> <p>トリーバ注ペンフィル</p> <p>インスリンデグルデク(遺伝子組換え)</p> <p>ノボノルディスクファーマ(株)</p>	<p>2.1低血糖症状を呈している患者</p> <p>2.2本剤成分に対し過敏症の既往</p>		<p>○インスリン療法が適応となる糖尿病</p> <p>初期は1日1回4～20単位を専用のインスリンペン型注入器を用いて皮下注射する。投与量は患者の状態に応じて適宜増減する。他のインスリン製剤を併用することがあるが、他のインスリン製剤の投与量を含めた維持量は、通常1日4～80単位である。但し、必要により上記用量を超えて使用することがある。注射時刻は原則として毎日一定とするが、必要な場合は注射時刻を変更できる。</p> <p>小児では、1日1回専用のインスリンペン型注入器を用いて皮下注射する。注射時刻は毎日一定とする。投与量は患者の状態に応じて適宜増減する。他のインスリン製剤を併用することがあるが、他のインスリン製剤の投与量を含めた維持量は、通常1日0.5～1.5単位/kgである。但し、必要により上記用量を超えて使用することがある。</p>		<p>【自己注射】 8.5 本剤の自己注射にあたっては以下の点に留意すること。・投与方法について十分な教育訓練を実施したのち、患者自ら確実に投与できることを確認した上で、医師の管理指導の下で実施すること。</p> <p>【自動車運転】 8.2 低血糖症状を起こすことがあるので、高所作業、自動車の運転等に従事している患者に投与するときには注意すること。</p>
22	<p>【抗悪性腫瘍剤ヒストン脱アセチル化酵素(HDAC)阻害剤】</p> <p>劇</p> <p>ハイヤスタ錠10mg</p> <p>ツシジノスタット</p> <p>HuyaJapan(同)</p> <p>MeijiSeikaファルマ(株)</p>	<p>2.1本剤成分に対し過敏症の既往</p> <p>2.2妊婦又は妊娠している可能性のある女性</p>		<p>○再発又は難治性の成人T細胞白血病リンパ腫</p> <p>○再発又は難治性の末梢性T細胞リンパ腫</p> <p>1日1回40mgを週2回、3又は4日間隔で食後に経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。</p>	<p>【重要な特定されたリスク】</p> <p>骨髄抑制、間質性肺疾患、感染症</p> <p>【重要な潜在的リスク】</p> <p>不整脈 (QT 間隔延長を含む)</p> <p>【重要な不足情報】</p> <p>該当なし</p>	<p>【同意の取得 (警告)】</p> <p>同意を得てから投与を開始すること。</p>

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
23	<p>【抗悪性腫瘍剤／抗Nectin-4抗体微小管阻害薬複合体】</p> <p>劇 生物</p> <p>パドセブ点滴静注用 30mg</p> <p>エンホルツマブドチン (遺伝子組換え)</p> <p>アステラス製薬(株)</p>	本剤成分に対し過敏症の既往		<p>○がん化学療法後に増悪した根治切除不能な尿路上皮癌</p> <p>1回1.25mg/kg (体重) を30分以上かけて点滴静注し、週1回投与を3週連続し、4週目は休薬する。これを1サイクルとして投与を繰り返す。ただし、1回量として125mgを超えないこと。なお、患者の状態により適宜減量する。</p>	<p>【重要な特定されたリスク】</p> <p>重度の皮膚障害、高血糖、末梢性ニューロパチー、骨髄抑制、感染症、腎機能障害、間質性肺疾患</p> <p>【重要な潜在的リスク】</p> <p>Infusion reaction、肝機能障害</p> <p>【重要な不足情報】</p> <p>該当なし</p>	<p>【同意の取得（警告）】</p> <p>同意を得てから投与すること。</p> <p>【漏出】 14.2.2 静脈内投与に際し、薬液が血管外に漏れ（血管外漏出）ると、投与部位における紅斑、圧痛、腫脹、水疱、皮膚の落屑等の事象を起こすことがあるので、薬液が血管外に漏れ（血管外漏出）ないように投与すること。</p>
24	<p>【オキシグルタチオン眼灌流・洗浄液】</p> <p>ビーエスエスプラス 500眼灌流液 0.0184%</p> <p>オキシグルタチオン</p> <p>日本アルコン(株)</p>			<p>○眼科手術（白内障、硝子体、緑内障）時の眼灌流及び洗浄</p> <p>用時、オキシグルタチオン溶液を希釈液で希釈し、眼科手術時に眼内及び眼外の灌流及び洗浄を目的とし、通常、下記の量を目安として適量を使用する。なお、術式及び手術時間等により適宜増減する。</p> <p>白内障手術 60～240mL 硝子体手術 90～400mL 緑内障手術 30～260mL</p>		

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
25	【抗糖尿病剤】 劇 ヒューマログ注ミリオペンHD インスリンリスプロ(遺伝子組換え) 日本イーライリリー(株)	2.1 低血糖症状 を呈している患者 2.2本剤成分に対し過敏症の既往		○インスリン療法が適応となる糖尿病 1回2～20単位を毎食直前に皮下注射するが、ときに回数を増やしたり、持続型インスリン製剤と併用したりすることがある。投与量は、患者の症状及び検査所見に応じて適宜増減するが、持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量としては通常1日4～100単位である。		【自己注射】 8.1 本剤の自己注射にあたっては、以下の点に留意すること。<製剤共通>・投与方法について十分な教育訓練を実施したのち、患者自ら確実に投与できることを確認したうえで、医師の管理指導の下で実施すること。 【自動車運転】 8.3 低血糖があらわれることがあるので、高所作業、自動車の運転等に従事している患者に投与するときは注意すること。
26	【アレルギー性疾患治療剤】 ビラノアOD錠20mg ビラスチン 大鵬薬品工業(株) FAESFARMA	2.1本剤成分に対し過敏症の既往		○アレルギー性鼻炎 ○蕁麻疹 ○皮膚疾患（湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症）に伴うそう痒 1回20mgを1日1回空腹時に経口投与する。	【重要な特定されたリスク】 ショック、アナフィラキシー 【重要な潜在的リスク】 該当なし 【重要な不足情報】 該当なし	

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
27	<p>【不整脈治療剤】</p> <p>劇 ピルシカイニド塩酸塩カプセル50mg 「DSEP」</p> <p>ピルシカイニド塩酸塩水和物</p> <p>第一三共エスファ(株) 第一三共(株)</p>	<p>2.1 うっ血性心不全のある者</p> <p>2.2 高度の房室ブロック、高度の洞房ブロックのある者</p>		<p>○下記の状態で他の抗不整脈薬が使用できないか、又は無効の場合</p> <p>頻脈性不整脈</p> <p>1日150mgを3回に分けて経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、重症又は効果不十分な場合には、1日225mgまで増量できる。</p>		<p>【自動車運転】 8.4 めまい等があらわれることがあるので、自動車の運転等、危険を伴う機械の操作に従事する際には注意するよう患者に十分に説明すること。</p>
28	<p>【血漿分画製剤（血液凝固剤）】</p> <p>特定生物 フィブリノゲンHT静注用1g「JB」</p> <p>乾燥人フィブリノゲン</p> <p>(一社)日本血液製剤機構</p>			<p>①先天性低フィブリノゲン血症の出血傾向 注射用水に溶解し、静脈内に注入する。通常1回3gを用いる。なお、年齢・症状により適宜増減する。</p> <p>②産科危機的出血に伴う後天性低フィブリノゲン血症に対するフィブリノゲンの補充 注射用水に溶解し、1回3gを静脈内投与する。投与後に後天性低フィブリノゲン血症が改善されない場合は、同量を追加投与する。</p>		

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
29	<p>【慢性心不全治療剤可溶性グアニル酸シクラーゼ（sGC）刺激剤】</p> <p>ベリキューボ錠 2.5mg 10mg</p> <p>ベルイシグアト</p> <p>バイエル薬品(株)</p>	<p>2.1本剤成分に対し過敏症の既往</p> <p>2.2可溶性グアニル酸シクラーゼ（sGC）刺激薬（リオシグアト）を投与中の者</p>	<p>▼可溶性グアニル酸シクラーゼ（sGC）刺激薬 リオシグアト（アデムパス）</p>	<p>○慢性心不全</p> <p>ただし、慢性心不全の標準的な治療を受けている患者に限る。</p> <p>1回2.5mgを1日1回食後経口投与から開始し、2週間間隔で1回投与量を5mg及び10mgに段階的に増量する。なお、血圧等患者の状態に応じて適宜減量する。</p>	<p>【重要な特定されたリスク】</p> <p>低血圧</p> <p>【重要な潜在的リスク】</p> <p>硝酸剤及びNO 供与剤との併用、PDE5阻害剤との併用</p> <p>【重要な不足情報】</p> <p>肝機能障害患者への投与時の安全性、腎機能障害患者への投与時の安全性、血圧が100mmHg未満又は症候性低血圧の患者への投与時の安全性、長期投与時の安全性（心血管死の発現状況を含む）</p>	<p>【自動車運転】 8.2 めまいがあらわれることがあるので、高所作業、自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には注意させること。</p>
30	<p>【選択的NK1受容体拮抗型制吐剤】</p> <p>ホスアプレピタント 点滴静注用150mg 「NK」</p> <p>ホスアプレピタントメグルミン</p> <p>日本化薬(株)</p>	<p>2.1本剤成分又はアプレピタントに対し過敏症の既往</p> <p>2.2ピモジド投与中の者</p>	<p>▼ピモジド オーラップ錠1mg、3mg、細粒1%</p>	<p>○抗悪性腫瘍剤（シスプラチン等）投与に伴う消化器症状（悪心、嘔吐）（遅発期を含む）</p> <p><成人及び12歳以上の小児> 他の制吐剤との併用において、成人及び12歳以上の小児には150mgを抗悪性腫瘍剤投与1日目に1回、点滴静注する。</p> <p><生後6ヵ月以上の乳幼児及び12歳未満の小児> 他の制吐剤との併用において、通常、生後6ヵ月以上の乳幼児及び12歳未満の小児には3.0mg/kgを抗悪性腫瘍剤投与1日目に1回、点滴静注する。ただし、150mgを超えないこと。</p>		

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
31	<p>【持続型赤血球造血刺激因子製剤】</p> <p>劇 生物</p> <p>ミルセラ注シリンジ</p> <p>150μg</p> <p>200μg</p> <p>250μg</p> <p>エポエチンベータペゴル (遺伝子組換え)</p> <p>中外製薬(株)</p>	<p>本剤成分又はエリスロポエチン製剤・ダルベポエチンアルファ製剤に過敏症の者</p>		<p>○腎性貧血</p> <p><血液透析患者> 6.1 初回用量 1回50μgを2週に1回静脈内投与する。</p> <p>6.2 エリスロポエチン (エポエチン アルファ (遺伝子組換え)、エポエチン ベータ (遺伝子組換え) 等) 製剤からの切替え初回用量 通常、1回100μg又は150μgを4週に1回静脈内投与する。</p> <p>6.3 維持用量 貧血改善効果が得られたら、1回25～250μgを4週に1回静脈内投与する。</p> <p>なお、いずれの場合も貧血症状の程度、年齢等により適宜増減するが、最高投与量は、1回250μgとする。</p> <p><腹膜透析患者及び保存期慢性腎臓病患者> 6.4 初回用量 1回25μgを2週に1回皮下又は静脈内投与する。</p> <p>6.5 エリスロポエチン (エポエチン アルファ (遺伝子組換え)、エポエチン ベータ (遺伝子組換え) 等) 製剤からの切替え初回用量 1回100μg又は150μgを4週に1回皮下又は静脈内投与する。</p> <p>6.6 維持用量 貧血改善効果が得られたら、1回25～250μgを4週に1回皮下又は静脈内投与する。</p> <p>なお、いずれの場合も貧血症状の程度、年齢等により適宜増減するが、最高投与量は、1回250μgとする。</p>		

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
32	<p>【抗悪性腫瘍剤ヒト型抗ヒトCTLA-4モノクローナル抗体】</p> <p>劇生物 ヤーボイ点滴静注液 20mg</p> <p>イピリムマブ(遺伝子組換え)</p> <p>ブリストル・マイヤーズ スクイブ(株) 小野薬品工業(株)</p>	本剤成分に対し重度の過敏症の既往		<p>①根治切除不能な悪性黒色腫 1回3mg/kg(体重)を3週間間隔で4回点滴静注する。なお、他の抗悪性腫瘍剤と併用する場合は、ニボルマブ(遺伝子組換え)と併用すること。</p> <p>②根治切除不能又は転移性の腎細胞癌</p> <p>③がん化学療法後に増悪した治療切除不能な進行・再発の高頻度マイクロサテライト不安定性(MSI-High)を有する結腸・直腸癌 ニボルマブ(遺伝子組換え)との併用において、1回1mg/kg(体重)を3週間間隔で4回点滴静注する。</p> <p>④切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 他の抗悪性腫瘍剤との併用において、1回1mg/kg(体重)を6週間間隔で点滴静注する。</p> <p>⑤切除不能な進行・再発の悪性胸膜中皮腫</p> <p>⑥根治切除不能な進行・再発の食道癌 ニボルマブ(遺伝子組換え)との併用において、1回1mg/kg(体重)を6週間間隔で点滴静注する。</p>	<p>【重要な特定されたリスク】 下痢・大腸炎・消化管穿孔、肝障害、皮膚障害、下垂体炎・下垂体機能低下症・甲状腺機能低下症・副腎機能不全、末梢性ニューロパチー、腎障害、間質性肺疾患、Infusion reaction、筋炎、心筋炎、臓器移植歴(造血幹細胞移植歴を含む)のある患者における拒絶反応</p> <p>【重要な潜在的リスク】 過度の免疫反応、生殖発生毒性、敗血症、移植歴のある患者における移植片対宿主病(GVHD)</p> <p>【重要な不足情報】 なし</p>	【同意の取得(警告)】 同意を得てから投与すること。
33	<p>【抗補体(C5)モノクローナル抗体製剤】</p> <p>劇生物 ユルトミスHI点滴静注300mg/3mL</p> <p>ラブリズマブ(遺伝子組換え)</p> <p>アレクシオンファーマ(同)</p>	<p>2.1髄膜炎菌感染症に罹患している患者</p> <p>2.2本剤成分に対し過敏症の既往</p>		<p>①発作性夜間ヘモグロビン尿症</p> <p>②全身型重症筋無力症(免疫グロブリン大量静注療法又は血液浄化療法による症状の管理が困難な場合に限る) 患者の体重を考慮し、1回2,400~3,000mgを開始用量とし、初回投与2週後に1回3,000~3,600mg、以降8週ごとに1回3,000~3,600mgを点滴静注する。</p> <p>③非典型溶血性尿毒症症候群 患者の体重を考慮し、1回600~3,000mgを開始用量とし、初回投与2週後に1回300~3,600mg、以降4週又は8週ごとに1回300~3,600mgを点滴静注する。</p>	<p>【重要な特定されたリスク】 髄膜炎菌感染症(敗血症を含む)</p> <p>【重要な潜在的リスク】 発作性夜間ヘモグロビン尿症患者における本剤投与中止による重篤な溶血、非典型溶血性尿毒症症候群患者における本剤投与中止による重度の血栓性微小血管症、infusion reaction、感染症(髄膜炎菌感染症以外)</p> <p>【重要な不足情報】 該当なし</p>	【同意の取得(警告)】 同意を得てから投与すること。

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
34	【アミノ酸輸液】 ライザケア輸液 L-アルギニン塩酸塩 L-リシン塩酸塩 富士フィルム富山化学(株) ノバルティスファーマ(株) 輸入先 AdvancedAcceleratorApplications社	アミノ酸代謝異常のある者		〇ルテチウムオキソドトロチド (177Lu) による腎被曝の低減 投与開始30分前より1回1000mLを4時間かけて点滴静注する。	【重要な特定されたリスク】 該当なし 【重要な潜在的リスク】 該当なし 【重要な不足情報】 該当なし	
35	【抗ウイルス剤】 劇 ラゲブリオカプセル 200mg モルヌピラビル MSD(株) 杏林製薬(株)	2.1本剤成分に対し過敏症の既往 2.2 妊婦又は妊娠 している可能性のある女性		OSARS-CoV-2による感染症 18歳以上の患者には、1回800mgを1日2回、5日間経口投与する。	【重要な特定されたリスク】 過敏症（アナフィラキシーを含む） 【重要な潜在的リスク】 骨髄抑制、催奇形性 【重要な不足情報】 該当なし	

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
36	<p>【眼科用VEGF阻害剤 (ヒト化抗VEGFモノク ローナル抗体Fab断片) 】</p> <p>劇</p> <p>ラニズマブBS硝子 体内注射用キット 10mg/mL「セン ジュ」</p> <p>ラニズマブ(遺伝子組 換え)</p> <p>千寿製薬(株) 武田薬品工業(株)</p>	<p>2.1本剤成分に対し過敏 症の既往</p> <p>2.2眼又は眼周囲に感染 のある者、あるいは感染 の疑いのある者</p> <p>2.3眼内に重度の炎症の ある者</p>		<p>①中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性 0.5mg (0.05mL) を1ヵ月毎に連続3ヵ月間 (導入期) 硝子体 内投与する。その後の維持期においては、症状により投与間隔 を適宜調節するが、1ヵ月以上の間隔をあけること。</p> <p>②病的近視における脈絡膜新生血管 1回あたり0.5mg (0.05mL) を硝子体内投与する。投与間隔 は、1ヵ月以上あけること。</p>	<p>【重要な特定されたリスク】 感染性眼内炎、眼内炎症、網膜剥離及 び網膜裂孔、眼圧上昇</p> <p>【重要な潜在的リスク】 動脈血栓塞栓事象</p> <p>【重要な不足情報】 該当なし</p>	<p>【自動車運転】 8.5 本 剤の硝子体内注射後、一 時的に霧視等があらわれ ることがあるため、その 症状が回復するまで機械 類の操作や自動車等の運 転には従事させないよう 注意すること。</p>
37	<p>【鼓膜穿孔治療剤】</p> <p>リティンパ耳科用 250μgセット</p> <p>トラフェルミン(遺伝子 組換え)</p> <p>ノーベルファーマ(株)</p>	<p>1.本剤成分に対し過敏症 の既往</p> <p>2.耳内に悪性腫瘍のある 者又はその既往</p>		<p>○鼓膜穿孔</p> <p>鼓膜用ゼラチンスポンジに100μg/mL溶液全量を浸潤させて成 形し、鼓膜穿孔縁の新鮮創化後、鼓膜穿孔部を隙間なく塞ぐよ うに留置する。</p>	<p>【重要な特定されたリスク】 該当なし</p> <p>【重要な潜在的リスク】 投与部位における悪性腫瘍の増悪、医 原性真珠腫の形成</p> <p>【重要な不足情報】 再穿孔した患者に本剤を再投与した際 の安全性、小児における安全性</p>	

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
38	<p>【放射性医薬品ペプチド受容体放射性核種療法剤】</p> <p>劇</p> <p>ルタテラ静注</p> <p>ルテチウムオキソドトロチド(177Lu)</p> <p>富士フイルム富山化学(株)</p> <p>ノバルティスファーマ(株)</p> <p>26.3輸入先</p> <p>AdvancedAcceleratorApplications社</p>	<p>2.1本剤成分に対し過敏症の既往</p> <p>2.2妊婦又は妊娠している可能性のある女性</p>		<p>○ソマトスタチン受容体陽性の神経内分泌腫瘍</p> <p>1回7.4GBqを30分かけて8週間間隔で最大4回まで点滴静注する。なお、患者の状態により適宜減量する。</p>	<p>【重要な特定されたリスク】</p> <p>腎機能障害、骨髄抑制、骨髄異形成症候群・急性骨髄性白血病</p> <p>【重要な潜在的リスク】</p> <p>ホルモン分泌異常(クリーゼ)</p> <p>【重要な不足情報】</p> <p>該当なし</p>	<p>【同意の取得(警告)】</p> <p>同意を得てから投与を開始すること。</p>
39	<p>【β-ラクタマーゼ阻害剤配合抗生物質製剤】</p> <p>レカルブリオ配合点滴静注用</p> <p>イミペネム水和物 シラストアチンナトリウム レレバクタム水和物</p> <p>MSD(株)</p>	<p>2.1本剤成分に対し過敏症の既往</p> <p>2.2他のβ-ラクタム系抗生物質に対し重篤な過敏症(アナフィラキシー等の重度の全身性アレルギー反応)の既往</p> <p>2.3バルプロ酸ナトリウム投与中の者</p>	<p>▼バルプロ酸ナトリウム(デパケン)</p>	<p><適応菌種> 本剤に感性の大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、セラチア属、緑膿菌、アシネトバクター属</p> <p>ただし、カルバペネム系抗菌薬に耐性を示す菌株に限る</p> <p><適応症> 各種感染症</p> <p>1回1.25g(レレバクタムとして250mg/イミペネムとして500mg/シラストアチンとして500mg)を1日4回30分かけて点滴静注する。</p>	<p>【重要な特定されたリスク】</p> <p>中枢神経症状、ショック、アナフィラキシー、中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis: TEN)、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)、重篤な肝障害、気管支痙攣、間質性肺炎、PIE症候群、重篤な血液障害、重篤な腎障害、偽膜性大腸炎、血栓性静脈炎</p> <p>【潜在的リスク】 【不足情報】</p> <p>該当なし</p>	

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考
40	<p>【抗精神病薬】</p> <p>劇 レキサルティOD錠 1mg 2mg</p> <p>ブレクスピプラゾール</p> <p>大塚製薬(株)</p>	<p>2.1昏睡状態の者</p> <p>2.2バルビツール酸誘導体・麻酔剤等の中枢神経抑制剤の強い影響下にある患者</p> <p>2.3アドレナリンを投与中の者（アドレナリンをアナフィラキシーの救急治療に使用する場合を除く）</p> <p>2.4本剤成分に対し過敏症の既往</p>	<p>▼アドレナリン（アナフィラキシーの救急治療に使用する場合を除く）</p> <p>ボスミン</p>	<p>○統合失調症</p> <p>1日1回1mgから投与を開始した後、4日以上の間隔をあけて増量し、1日1回2mgを経口投与する。</p>	<p>【重要な特定されたリスク】</p> <p>錐体外路症状・遅発性ジスキネジア、痙攣発作、脂質異常症（トリグリセリド、LDL コレステロール、HDL コレステロール、総コレステロール）、悪性症候群、麻痺性イレウス、横紋筋融解症、高血糖・糖尿病性ケトアシドーシス・糖尿病性昏睡、無顆粒球症・白血球減少、肺塞栓症・深部静脈血栓症</p> <p>【重要な潜在的リスク】</p> <p>自殺行動・自殺念慮、低血糖、衝動制御障害</p> <p>【重要な不足情報】</p> <p>該当なし</p>	<p>【自動車運転】 8.1 眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないよう注意すること。</p>

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考																																				
41	<p>【遺伝子組換えヒト卵胞刺激ホルモン（FSH）製剤】</p> <p>生物</p> <p>レコベル皮下注</p> <p>12μgペン</p> <p>36μgペン</p> <p>72μgペン</p> <p>ホリトロピンデルタ（遺伝子組換え）</p> <p>フェリング・ファーマ（株）</p>	<p>2.1本剤成分に対し過敏症の既往</p> <p>2.2エストロゲン依存性悪性腫瘍（例えば、乳癌、子宮内膜癌）及びその疑いのある者</p> <p>2.3十分にコントロールされていない甲状腺又は副腎機能不全の者</p> <p>2.4視床下部、下垂体腫瘍等の頭蓋内器官の活動性の腫瘍がある患者</p> <p>2.5診断の確定していない不正出血のある者</p> <p>2.6原因が特定されない卵巣腫大又は卵巣嚢胞のある者</p> <p>2.7妊婦又は妊娠している可能性のある女性</p>		<p>○生殖補助医療における調節卵巣刺激</p> <p>投与開始前の血清抗ミュラー管ホルモン（AMH）値及び体重に基づき、下表に従い算出した投与量を、月経周期2日目又は3日目から1日1回皮下投与し、卵胞が十分に発育するまで継続する。なお、下表に従い算出した投与量が6μgを下回る場合は6μgを、12μgを上回る場合は12μgを、1日あたりの投与量とする。</p> <table border="1" data-bbox="1172 787 2537 1102"> <tr> <td>血清AMH値 (pmol/L)</td> <td><15</td> <td>15~16</td> <td>17</td> <td>18</td> <td>19~20</td> <td>21~22</td> <td>23~24</td> <td>25~27</td> <td>28~32</td> <td>33~39</td> <td>≧40</td> </tr> <tr> <td>1日あたりの投与量</td> <td>12</td> <td>0.19</td> <td>0.18</td> <td>0.17</td> <td>0.16</td> <td>0.15</td> <td>0.14</td> <td>0.13</td> <td>0.12</td> <td>0.11</td> <td>0.10</td> </tr> <tr> <td></td> <td>μg</td> <td colspan="10">μg/kg（体重）</td> </tr> </table>	血清AMH値 (pmol/L)	<15	15~16	17	18	19~20	21~22	23~24	25~27	28~32	33~39	≧40	1日あたりの投与量	12	0.19	0.18	0.17	0.16	0.15	0.14	0.13	0.12	0.11	0.10		μg	μg/kg（体重）										<p>【重要な特定されたリスク】</p> <p>卵巣過剰刺激症候群（OHSS）及びその合併症</p> <p>【重要な潜在的リスク】</p> <p>過敏症</p> <p>【重要な不足情報】</p> <p>該当なし</p>	<p>【自己注射】 8.3 在宅自己注射を行う場合は、患者に投与方法及び安全な廃棄方法の指導を行うこと。</p>
血清AMH値 (pmol/L)	<15	15~16	17	18	19~20	21~22	23~24	25~27	28~32	33~39	≧40																															
1日あたりの投与量	12	0.19	0.18	0.17	0.16	0.15	0.14	0.13	0.12	0.11	0.10																															
	μg	μg/kg（体重）																																								

No	医薬品名 一般名 会社名	禁忌	併用禁忌	効能効果と用法用量	RMP	備考										
42	<p>【抗悪性腫瘍剤RET注 2) 受容体型チロシンキナーゼ阻害剤 注2) RET : rearranged during transfection】</p> <p>劇 レットヴィモカプセル 40mg 80mg</p> <p>セルペルカチニブ</p> <p>日本イーライリリー(株)</p>	本剤成分に対しアナフィラキシー等の重篤な過敏症の既往		<p>①RET融合遺伝子陽性の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 1回160mgを1日2回経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。</p> <p>②RET融合遺伝子陽性の根治切除不能な甲状腺癌</p> <p>③RET遺伝子変異陽性の根治切除不能な甲状腺髄様癌 1回160mgを1日2回経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。</p> <p>通常、12歳以上の小児には体表面積に合わせて次の投与量（1回約92mg/m²）を1日2回経口投与する。なお、患者の状態により適宜減量する。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">小児の用量</th> </tr> <tr> <th>体表面積</th> <th>1回投与量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.2m²未満</td> <td>80mg</td> </tr> <tr> <td>1.2m²以上1.6m²未満</td> <td>120mg</td> </tr> <tr> <td>1.6m²以上</td> <td>160mg</td> </tr> </tbody> </table>	小児の用量		体表面積	1回投与量	1.2m ² 未満	80mg	1.2m ² 以上1.6m ² 未満	120mg	1.6m ² 以上	160mg	<p>【重要な特定されたリスク】 肝機能障害、QT間隔延長、過敏症、高血圧、間質性肺疾患</p> <p>【重要な潜在的リスク】 出血、骨成長の異常（骨折を含む）、胚・胎児毒性、肝機能障害を有する患者における安全性</p> <p>【重要な不足情報】 該当なし</p>	【同意の取得（警告）】 同意を得てから投与すること。
小児の用量																
体表面積	1回投与量															
1.2m ² 未満	80mg															
1.2m ² 以上1.6m ² 未満	120mg															
1.6m ² 以上	160mg															